

元。プロ監督と「打倒Fリーグ勢」

フットサルの大学日本一を争う全日本大学大会で、大阪成蹊大（大阪市東淀川区）が史上初の4連覇を果たした。大阪府岸和田市で8月にあった大会で4年連続4度目の優勝を決め、神戸大、順天堂大と並んでいた連覇記録を更新した。

初戦の準々決勝で広島大に9-1、準決勝は東北大に8-2で快勝。ライバルの順天堂大と対戦した決勝は延長後半に勝ち越し、3-2で逃げ切った。順天堂大にPK戦以外で勝つのは初めてだった。

「言葉にならないうれしさがあつた」と、9月まで主将だった横田翔選手（4年）は言う。選手たちの喜びがひとしおなのは、今年のチームに大きな変化

があつたからだ。2020年から指揮した佐藤亮・前監督（40）がフットサル日本代表のコーチに就任するため、3月に退任した。後任として新たに就任したのは、Fリーグのシュライカー大阪で昨年までプロとしてプレーしていた磯村直樹監督（30）。4連覇に挑む年に監督が代わり、横田選手は「みんな不安だった」と明かす。

練習が始まると、選手の戸惑いは大きくなった。マンツーマンからゾーンディフェンスになるなど、戦術が変わった。チームの代名詞だった声出しにも、磯村監督からは「必要なコミュニケーションがあるなら大きな声もいいが、ただ声を出すだけでいいのか」とストップがかかった。

指摘は正論。でも、納得できない思いがあつた。「俺より若い監督なんだから、もっとイジれ」という佐藤前監督のアドバースも効いて、少しずつ打ち解けていった。声出しもケース・バイ・ケースでOKに。チームに勢いが戻った。

次に目指すのは「打倒Fリーグ勢」だ。国内最高峰のリーグで日本代表も多く、大阪成蹊大はこれまで全日本選手権で3度

Fリーグのチームと戦ったが、いずれも敗れている。

10月には、全日本選手権の予選にあたる大阪府大会が始まる。さらに関西大会を勝ち抜けば、例年2、3月に開催され、Fリーグ勢が出る本大会に出場できる。

磯村監督は「今すぐFリーグに入っても中位につける力をつけたい。10回に1回の勝つチャンスをもつスタイルでなく、チャンス自体を3回、4回に増やしたい」と話す。横田選手も「前年度までの全日本の経験で、Fリーグの力は分かってる。勝負はここから」と意気込む。

全日本大学大会で史上初の4連覇を決め、喜ぶ大阪成蹊大の選手たち。大阪成蹊大提供



大阪成蹊大の磯村直樹監督（中央）。Fリーグでのプロ経験を生かし、チームに新風を吹き込んだ＝大阪市東淀川区

大阪成蹊フットサル部 史上初の大学4連覇